



中名田っ子

小浜市立中名田小学校
令和元年10月24日
10月号

暑かった夏が嘘のように、朝夕めっきり涼しくなりました。秋の到来とともに一日の気温差も大きくなり、学校でも体調を崩す児童が出てきています。今からインフルエンザ流行の時期にもなります。手洗い、うがい、そして十分な睡眠で健康な体づくりに努めてください。10月29日には校内マラソン大会もあります。自分で体調管理をしっかりして、自己ベスト記録を作り出してください。



さて、今月上旬には小浜市小学校陸上記録会が口名田の総合運動場で行われました。天候を考慮して、決勝は行わずタイムレースでの大会となりました。会場には多くの保護者の方が足を運んでくださりありがとうございました。中名田小学校の選手は、持てる力を十分発揮して頑張ってくれたと思います。小浜市の児童が集まり、その中で自分の力を発揮し、客観的に自分を見つめるには大変いい経験ができたと思います。また、競技の面だけではなく、応援や挨拶についても他校の児童の様子は大きな刺激になったと思います。このような経験は、日常生活のどこかで生きてくると思います。

また、10月8日・9日には6年生が修学旅行で関西方面に行ってきました。人と防災未来センターでは災害の恐ろしさを肌で感じ、ホテルではいつもと違う枕で寝にくく「家」の良さを改めて感じ、更に、奈良でのPR活動では自分たちの英語が通じたことの満足感など学校生活では味わうことができない体験を数多く積むことができました。いつもと違う環境に身を置くことで、自分を客観的に見つめたり、友達の新たな一面を発見したり、人のつながりやふるさとの良さを感じたりと大変意義のある修学旅行になりました。

先日、「12歳までの脳は、五感が取り込んだ感性の情報にあらゆる記憶が付帯していて、世の中を全身で感じ、脳にしまい込む年代だ。」という記事に出くわしました。12歳までは、詰めこみ型の勉強よりも、体験が大事。人に触れ、芸術に触れ、身体を動かし、読書をするこのほうが、ずっと脳神経回路を成長させる。つまり、12歳までは、日が暮れるまで遊んで、宵は読書、夜は早寝が最高の英才教育ということだそうです。ここ数年、学校の教育も従来の詰めこみ、知識注入の授業から人と意見を交わし、協力して課題を解いていくという授業スタイルに変わってきています。脳神経回路の成長の面からも12歳までは五感に働きかけ生涯の土台を作る脳を作ることができたらすばらしいなど、この記事を目にしたときに思いました。

つぶやき

先日全国小学校長研究大会のため秋田県に行ってきました。この大会で他県の校長と情報交換をする機会がありました。その中で驚いたことがあります。福井県では、ほとんどの学校に設置されているクーラーが無い学校が多いこと。また、インターネット環境が整備されていないため、パソコンを使った学習ができないこと。外国語の授業にALT(外国語指導助手)が年に数回しか来ないこと。(今現在小浜市の学校には5・6年は毎時間、3・4年には隔週でALTが授業に参加)など、福井県の教育環境と大きく違うことにびっくりすると同時に福井県の教育環境の良さを改めて感じました。子どもも、我々も恵まれた環境で学校教育が行われていることに感謝の思いを抱きました。福井県の中にいるだけでは、なかなか分からないことも、一歩外の世界に身を置くことで日頃気づかないことも見えてくるのだと痛感した大会でした。

ご意見・ご感想をお聞かせください。

〈キリトリセン〉

保護者の声 年 組 保護者氏名

「紙はゴミじゃない」

四年 大江 斗真

一学期の社会の時間にクリーンセンターの見学に行ってきた。センターでは色々説明してもらいました。たくさんゴミが集められていました。ゴミの分別も授業で勉強しました。プラスチックや紙などを分別すると、分別されたものが集められて、他のものに生まれ変わることが分かりました。この勉強をして、生れ変わるゴミに興味を持ったのでこの本を読んでみようと思いました。この本は、「コロッケ先生」という人の話です。先生の名前は小六信和で、小六という名字から子どもの頃、「コロッケ」と呼ばれていた。それで、今も、「コロッケ先生」と呼ばれているそうです。覚えやすい面白い名前だなと思いました。コロッケ先生は、明和せい紙原料かぶ式会社の社長さんです。この会社は、古紙を集めて製紙会社に販売する会社です。コロッケ先生のお父さんが、この会社の初めの社長さんでした。コロッケ先生のお父さんとお母さんは、コロッケ先生に物を大切にすることを教えていました。コロッケ先生は、ねだって買ったグロブを外にほったらかしにしたことがあったそうです。その時、お父さんはすぐおこつて、コロッケ先生を反省させるために古紙がつまめた倉庫に連れて行きました。そんなコロッケ先生にお母さんは、「古紙がくずと言われるけれど、命を吹き込めば生き返る。だから物を粗末にはいけない」と教えました。ここを読んで、ぼくは今まで物を大切にしてきたかなど考えました。

コロッケ先生は、友達から「くず屋の子」と言われることがあったそうです。その時、くずやない。大事な物なんじゃ。お父さんとお母さんが命を吹き込む大事な物なんじゃ」と心の中で叫んでがまんしていたそうです。すごいなと思いました。

紙は木から作られます。三十年かけて育った木が紙を作るために切りたおされるけど、古紙を五十キロ集めてリサイクルすれば木を1本助けられることをこの本ではじめて知りました。使った紙を集めて何度も繰り返しリサイクルして紙に生き返らせれば、何本も木を助けることができるなと思いました。

コロッケ先生は、授業の中で古紙をミキサーにかけてまた紙としてよみがえらせています。ぼくも、その授業を受けてみたいと思いました。自分も紙をよみがえらせたいなと思いました。使った後の紙を何度もよみがえらせれば、紙ゴミはふえないし、木も切らなくていいし、地球のかんきようにすくいとしたいと思います。コロッケ先生はこのことをみんなに知ってほしいんだと思いました。

コロッケ先生は、「紙がゴミじゃない」と伝えるためにリサイクルの授業をして全国を回るのが夢だそうです。ぼくはこの本を読んで、ゴミを増やさないうためのリサイクルについてもっと勉強してみたいと思いました。

大江斗真さんの読書感想文、とてもすばらしいですね。リサイクルについて考える機会になりました。

